○議長（中村　敦君）　次は、質問順位４番、１つ、防災における現状と今後・女性の参画について、２つ、人と動物の愛護と共生について。

以上２件について、６番　天野美香君。

〔６番　天野美香君登壇〕

○６番（天野美香君）　市政会、６番　天野でございます。

先日の緊急速報が出て、解除まで、お一人暮らしの方、高齢者の方々、小さなお子さんをお持ちの御家庭の方では、突然のことに落ち着かれない時間を過ごされると思いますが、何事もなく安堵いたしました。

本日、最後の質問となります。よろしくお願いいたします。

議長の通告によりまして、順次、質問をさせていただきます。

１つ、防災における現状と今後・女性の参画について。

地球温暖化により、海水温の上昇・異常気象による朝夕の寒暖差。近年予測のつかない、先の見えないことが多く感じられます。

熱海市伊豆山土石流災害で被災された方の中には、いまだ仮設住宅での生活をされていると伺います。地震、津波においても同様に、いつ、どこで起きるかは誰にも分かりません。市民が安全に、安心して過ごせるにはどのように取り組むべきであるか、現状と今後の課題について、幾つかお尋ねさせていただきます。

南海トラフ巨大地震の内閣府の想定によると、被害の大部分は津波であると言われています。また、県の第４次地震被害想定では、レベル２相当の巨大地震が発生した場合、賀茂地区で、最大約１万7,000人が犠牲になるとされ、下田市においても、明日のこととして向き合う必要があると思います。

そこで幾つかお聞かせください。

１つ目として、現在、下田市の高齢化率は42.7％、高齢化が進む現状の中、地震津波発生への対応において心配され、不安であるとの声を多く伺います。また、市内全域に避難場所が設けられておりますが、最も津波浸水区域と想定される旧町内の指定緊急避難場所は、春日山避難地・旧下田幼稚園上避難地・長楽寺避難地ですが、なかなか高齢者の方々が敏速に避難されるには困難であると考えられます。今ある避難場所に加え、今後、避難タワーの設置などお考えか、お聞かせください。

２つ目として、地震、津波発生から３日ないし、ライフラインの復旧までを考慮する必要があるため、７日間程度の備蓄が必要と思われます。各地区での備蓄品の確保はされていま

すが、行政で確保していただいている備蓄品において、地震津波発生があった場合の搬出入の作業は非常に難しいと考えられることから、ドローン・オフロードバイク等を活用するなどのお考えはありますでしょうか。また、トイレ設備についてもお聞かせいただければと思います。

３つ目といたしまして、平滑川の水門についてお尋ねします。

近隣の住民の方から不安される声がありました。実際、私も視察に行ってまいりましたが、やはり稼働していないということからの御心配もあるかと思います。この件について、お聞かせいただければと思います。

４として、防災における女性の参画についてですが、今現在、市として男女の割合はどのような状況でしょうか。

伊豆の国市では、女性の参画のもと、出前講座など防災における活動を長くされ、先月、知事褒章を受賞されていました。なかなか男女を均等していくことは難しい面もあろうかと思いますが、11月25日・26日の２日間、総合庁舎で行われた災害ボランティアコーディネーター養成講座に、私も参加させていただきました。

参加者の男女の割合からすると、やはり女性のほうが少なかったのですが、互いの意見や視点を生かして、どのような対応策がこの場では必要であるかなど話し合い、防災への知識とともに、大変勉強になりました。

そうしたことも踏まえ、私自身もそうですが、防災への女性の参画は、あらゆる面で重要なことと思います。下田市として、女性の防災への参画において、どのようなお考えがあるか、お聞かせいただければと思います。

５として、小学校・中学校の防災教育について、お知らせください。

先ほどの災害ボランティアコーディネーター養成講座参加の折に、県賀茂地域局危機管理課の方とも、防災教育の話をする機会がありました。子供たち、教職員の先生方、多忙なカリキュラムの中で防災についての学習をしていただいていると伺いましたが、子供たちの様子などをお聞かせいただければと思います。

大きな問題としまして、２つ目です。

人と動物の愛護と共生について。

ペットを飼育することは、生活・健康面・ストレス社会の中においても、命とのつながりを知り、また子供たちにとっては、相手を思いやる優しい心、命と向き合うことによって責任感が育ち、大切なことと思います。

しかしながら、世の中の高齢化によって突然の病・施設入所・認知症などの事情から、最後までお世話ができない状況が生じることや、近年、問題視されている野良猫への無責任な餌やり、生活状況による飼育管理有無の現状などから、解決すべき問題とされています。それが「多頭飼育」です。

下田市においては、猫のＴＮＲ活動。ＴＮＲとは、捕獲器などで野良猫を捕獲し、避妊・去勢手術を行い、元に戻し、猫の数を抑制につなげることです。

町の中で、猫の耳が桜の花びら状にカットされているのを見かけたことがありますでしょうか。桜耳になっている猫が、ＴＮＲ済みの猫です。

その活動を、ねこサポさんによって2014年から開始され、野良猫対応に多大なる御尽力をいただいております。

これまでの活動において、2023年現在で、ＴＮＲ数は約1,200頭に及ぶ野良猫活動にお力添えいただいたおかげで、現在、路上遺体は53頭となり、かなりの減少数を示し、保健所の引き取り、いわば殺処分でありますが、現在ゼロ頭と、ＴＮＲ活動の成果を上げ、野良猫対応に御協力をいただいております。既に、この活動においては、市長自ら御存じのことであるかと思います。

しかし、郊外においての野良猫の状況は、大変発覚するのも困難であること、加えて飼い猫と野良猫の区別が非常に難しいことも事実であります。外飼いであっても、飼い猫の所有者は動物愛護法７条に定められた「動物の所有者または占有者の責務」を負っており、適正な飼育を行う努力義務が課されています。

一方、野良猫は、鳥獣の保護及び管理に並び狩猟の適正化に関する法律・鳥獣保護管理法の対象に含まれるため、捕獲・保護が可能となります。しかし、人間の生活の範囲にいる野良猫は、純粋な野良猫とは異なり、鳥獣保護法の対象から除外されます。その辺りの線引きが難しいのも、課題の一つです。

そこで幾つかお尋ねいたします。

１として、現在、市内における多頭飼育の現状について、お分かりになる範囲で構いません。状況が分かればお聞かせいただければと思います。

２として、猫の餌やりについてお聞きします。こちらのことにおいても、大変デリケートなことであり、無責任な餌やりばかりでなく、ＴＮＲ活動に沿った「餌やりさん」もいらっしゃり、その方々に関しては時間を決めての餌やり・片づけ・避妊・去勢手術をしていない新しい猫への対応として、手術を促すお手伝いをされていると伺いました。

一方、無責任な餌やりとはいえ、生きている命に対しての行為であろうかと思いますが、こうした行為によって、猫以外の動物問題として、先日、新聞にも掲載されました。寒い冬の夜の中での捕獲においても、猟友会の方々の御尽力に感謝申し上げるところでございます。

ほかにもカラスやハトの増加、ほかからの野良猫流入、繁殖を招く可能性も生じかねません。こうした動物との関わり方は、社会問題・地域の問題であると思います。市内における餌やりなどにおいて、どのような対応をされているか、お聞かせいただければと思います。

３として、下田市においては、猫の避妊・去勢手術に対し、２分の１補助金として、雌猫１万円、雄猫6,000円の補助をしていただいておりますが、この補助金は、野良猫に対してのものであり、飼い猫は対象外です。しかしながら、線引きが難しい多頭飼育の現状において、地域猫への動物愛護推進のもと、ＴＮＲ活動を行っているボランティア団体では、市民の寄附から財源の確保をされる中で、避妊・去勢手術をされております。

このような状況の改善策と、ボランティア団体との今後の連携について、どのような方針であるかお聞かせいただければと思います。

以上、２つの質問をさせていただきます。当局の回答をお願いいたします。

また、最後に、市長より現状と今後の方針といたしまして、お考えをお聞かせいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

○議長（中村　敦君）　当局の答弁を求めます。

教育長。

○教育長（山田貞己君）　私からは、防災における現状と今後の女性の参画について、その中の５つ目、小・中学校の防災教育について、お答え申し上げたいと思います。

防災教育についてでございますけれども、全ての小・中学校において、毎年、先ほど議員のほうからもありましたが、県の賀茂地域局危機管理課から講師を招いて、防災講座を開催しております。

例えば、小学校の低学年においては、低学年ですので、防災かるたですとか、非常用の食器づくりなど、楽しみながらも自分たちのこととして防災学習に取り組んでおり、高学年になりますと、やはりそれなりの判断力といいますか考えを持たせたいということで、家庭でできる地震対策、避難所運営ゲーム、これは通称ＨＵＧと言いますが、避難所運営ゲームの頭文字をとって、ＨＵＧ、ハグですね。それから、災害図上訓練もやります。これは、通称ＤＩＧといいます。ディザスターイマジネーションゲームという、頭文字をとってＤＩＧと

いうそうなんですが、この実施。被災状況を想定した学習内容となっていまして、実際に発生し得る状況を想像しながら、講座となるため、児童生徒、それぞれが集中して、自分事として取り組んでおります。

また、浜崎小学校や朝日小学校においては、ふじのくにジュニア防災士と言いまして、認定証の取得に向けた取組を進めています。

レポートを出して、ある程度の訓練を、防災訓練を実施して認定を受けるというものですが、今回、12月３日中止になったものですから、浜崎小学校あたりは、それに代わるものを、レポートのようなことで提出することで、認定を受けられそうだという、そんな話も聞いております。

避難訓練につきましては、地震の避難訓練、これは各校、少なくとも年２回以上実施しております。予告ありの訓練、予告なしの訓練と工夫したもので実施しております。

また学校の立地条件によって、裏山の土砂災害を想定した避難訓練、これ稲生沢小、あるいは海での校外学習時、浜辺からの津波避難訓練、これは例えば白浜小ですとか、そういったことで、各学校、様々な状況を想定した避難訓練を行っています。

雑駁ですけれども、私のほうからは以上でございます。

○議長（中村　敦君）　防災安全課長。

○防災安全課長（土屋武義君）　防災に関するたくさんの御質問、ありがとうございます。

それでは、順次御回答させていただきます。

質問ナンバー１番の防災における現状と今後・女性の参画についての１番でございますが、今ある避難場所に加え、今後、避難タワーの設置などの考えがあるかという質問にお答えさせていただきます。

令和元年度に策定いたしました津波避難計画において、津波避難シミュレーションを実施した結果、旧町内におきましては、早期避難を実施することにより、現在の避難施設で避難できる想定となってございます。

しかしながら、家屋の倒壊や高齢化等の状況から、津波避難タワー等の設置につきましては、検討すべき課題であると認識しております。

平成30年度にも、旧町内への津波避難タワーの設置について検討を行いましたが、いずれも立地条件等の関係で断念したところでございます。

今後の設置に向けた取組といたしましては、適切な場所の用地確保を図るとともに、新たな公共施設建設の際には、屋上への避難場所の設置や、耐浪性を有する民間所有のビルに補

助金を交付し、避難ビル指定を行い、積極的に避難場所を確保するなど、敏速に避難が可能なように努力してまいります。

続きまして２番でございます。

行政で確保している備蓄品の事情は、また、備蓄品搬出入にドローン、オフロードバイク等の活用の考えは、また、トイレ設備についての現状についてという御質問でございます。

こちらにつきましては、当市備蓄品につきましては、第４次被害想定で想定される３日分の市民及び観光客、出張客分の食料12万5,000食分を目標として、非常食12万1,900食、水１万1,892リットルを、25カ所に分けて保管しているほか、各種備品を避難所で活用できるよう、各地区に分けて備蓄しております。

ドローン、オフロードバイク等の活用につきましては、現在、ドローンを活用した孤立予想集落対策として、静岡県の過疎イノベーション事業を活用して、大規模災害発生時における孤立予想集落への物資輸送に向けた飛行ルート設定の実証実験に向けて、協議を進めております。

オフロードバイクの導入につきましては、活用方法や管理方法について、他市町の実例を参考に、今後、検討していきたいと思っております。

また、トイレ設備につきましては、指定避難所の白浜小学校及び浜崎小学校に、マンホールトイレ各７基の整備のほか、インフラが復旧する前でも使用できる洋式便器用携帯トイレ６万5,300袋、移動式和式トイレ52基、移動式洋式トイレ33基を、主だった避難所に備蓄しております。

食料品の備蓄同様に、トイレ設備も重要と考えておりますので、今後も、内閣府出典による避難所におけるトイレの確保、管理ガイドラインを参考に、適正数の確保を行ってまいります。

続きまして、３番の平滑川の水門についてのお答えでございます。

平滑川水門は、昭和48年ごろに消防水利の確保を目的に設置されたものでございます。令和２年度に、溶接部の腐食からゲートが落下したため、修繕を行い、合わせて各所の器具部品を点検したところ、自動でゲートが規定の位置まで引き上げられないこと、老朽化による配電盤の不動、腐食によるゲート交換の必要等、複数箇所の不具合が多かったことから、多額の経費を要することが判明したため、修繕後は水門の操作を行わないようにしてまいりました。

現在の消火活動に必要な要件として、水門周辺には複数の消火栓や貯水槽といった消防水

利が確保されていることから、消防団長及び地元分団長に確認し、撤去の方針を確認しました。

これらのことから、水門は撤去し、護岸を原状復旧するという方針とし、平滑川の管理者である下田土木事務所と協議の上、進めてまいります。

続きまして、４つ目でございます。防災における女性参画の現状は、下田市として、女性の防災への参画についての考えは、という御質問でございます。

防災における女性の参画につきましては、現在、48自主防災会のうち、女性の自主防災会長は１名、防災委員94名のうち、女性の委員は４名となってございます。

防災減災の災害に強い社会の実現のためには、女性が防災の意思決定過程や、現場に主体的に参画し、女性と男性が災害から受ける影響の違いなどに十分に配慮された、災害対応が行われることが必要であると考えてございます。

避難所における女性特有の課題への対応といたしまして、市といたしましては、避難所開設において、女性職員も必ず配置するよう配慮しております。

災害から全ての人を守る第一歩として、女性の視点をしっかり踏まえた防災・減災を進めるためにも、日頃の防災活動に参加しやすい方法を検討し、参加を呼びかけていきたいと思います。

また、計画策定等の段階から、女性の意見を反映するため、防災安全課に女性職員を配置する等の対応を検討いたします。

私からは以上でございます。

○議長（中村　敦君）　環境対策課長。

○環境対策課長（鈴木　諭君）　私からは、天野議員の御質問の２点目、人と動物の愛護と共生についてにつきまして、３点の御質問をいただいておりますので、順次お答えを申し上げます。

まず１点目、市内における多頭飼育の現状についてのお伺いでございます。

近年、問題視されております、その無秩序な飼い方によりまして、所有者が飼うことができる数を超えてしまう多頭飼育崩壊といった事例については、関係者の協力もありまして、市内では確認はされておりません。ただし、多頭飼育に至る途中というか、だんだん増えている多頭飼育というものが原因で、周りの方に迷惑を及ぼす、臭いがいったり、ふんをしたりという、そういった迷惑を及ぼしている事例については確認をしておりまして、こちらにつきましては、賀茂保健所等の関係機関と連携をしながら、情報共有をしながら、訪問指導

というものを行っております。

訪問指導件数につきましては、令和４年度につきましては９件、令和５年につきましては、11月末現在で11件について、実施をしております。

それから２点目の、市内における餌やりなどについての対応ということで、御質問がございました。

この問題のある餌やりというものにつきましては、こちらにつきましても、賀茂保健所と連携をして訪問をし、そういった無責任な問題のある餌やり等の行動が確認をされれば、そちらについては改めていただけるようにということで、指導を行うとともに、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費の補助金、あるいは議員からもお話がありました、ＴＮＲ活動といったものの情報を提供しております。

また、必要に応じて、看板をお渡しして設置するなりして、無責任な餌やりについては、やめるようにということで、周辺への周知、あるいは指導等を行っております。

それから３点目、ＴＮＲ活動を行っているボランティア団体の財源的な問題への改善策であるとか、今後の連携について、御質問がございました。

こちらにつきましては、ボランティア団体の活動の財源として、この飼い主のいない猫、不妊・去勢手術費補助金というものが、その一部に充てられているほか、いると同時に、これ以外につきましては、寄附金等によって、そういった団体の活動が賄われているというふうに認識をしております。

平成30年度に、この補助金制度を開始した後に、事故等によって回収される猫の遺体の数というものが、先ほど、議員の御質問の中にもありましたように、制度開始前につきましては、平成29年度132頭あったものが、令和４年度には53頭まで減少しております。一番多かったところは150頭ぐらいの年もありましたので、２分の１から３分の１に減っているというような状況でございます。

こういった中で、飼い主のいない猫対策として、数字として表れている効果というものも出ているというふうに考えております。現在、この補助率２分の１で、雌が1万円、雄が6,000円という上限ということで支給をしておりますけれども、こちらの制度ですね、個人の方でも活用しやすいような制度となるように、金額、補助率等の見直しを検討したいというふうに考えております。

また、今年度から活用を始めました県の動物保護協会の猫の適正管理推進モデル事業という事業がございまして、こちらで動物愛護ボランティア等と連携したＴＮＲ活動の経費とい

うものに対して、上限10万円で、原則として１市町、１年度１事業というふうになっておりますが、こういった制度を活用して、団体の支援を始めました。

こちらにつきまして、来年度以降も制度を活用して、こういった団体活動の支援に当たっていきたいというふうに考えております。

また、この活動の支援に当たりましては、この補助制度の活用のほか、県、保健所、それから市民、県と市とボランティアの皆さんが情報の共有を図りながら、相互に連携して展開してまいりたいというふうに考えております。

私からは以上です。

○議長（中村　敦君）　６番　天野美香君。

○６番（天野美香君）　御答弁ありがとうございます。一つずつ再質問と、合わせてさせていただきたいと思います。

１の防災における現状と今後・女性の参画についての１でございますが、子供がちっちゃい頃、私も防災教育として、地震体験車、何度か乗ったことがあるんですけれども、体験車から降りた後、本当すぐに次の行動は困難でした。病気を抱えた方とか、高齢者の方、子供たちも同様であろうと思いますが、そうしたことを考えますと、避難場所というのは分かりやすく、近いところが一番、最も望ましいことでありまして、避難タワーにおきましても、タワーの高さ、レベル２相当であれば、最大浸水深も８から９メートルと予測されることにおいても、それ以上のものをつくらなければならないということもございます。

そうした課題も生じようかと思いますけれども、近隣住民の意見を聞いていただいて、そういう機会を、市長を交えて設けていただいて、御回答いただきました屋上への避難場所の設置など、避難ビル指定と合わせまして、迅速に避難ができますように、市民の安全安心に生活できることが一番ですので、そちらのほう、よろしくお願いいたします。

それと、市内全域に53カ所あります指定緊急避難場所について、お尋ねします。

大変、広範囲ではありますけれども、そちらの見回り及び点検など、どのようにされているのか、お聞かせいただければと思います。

○議長（中村　敦君）　防災安全課長。

○防災安全課長（土屋武義君）　指定緊急避難場所の見回り及び点検につきましては、備蓄品の入れ替えの際に、避難場所の不具合の点検を行いまして、適切に利用できるよう、確認を行ってございます。

また、不具合につきまして、各自主防災会から御指摘があった場合につきましては、速や

かに確認を行いまして、改善に努めております。

以上でございます。

○議長（中村　敦君）　６番　天野美香君。

○６番（天野美香君）　ありがとうございます。備蓄品の入替えと合わせまして、確認をしていただいているので、とても安心しました。

また、先日ですけれども、これはまた市民のほうからの声がありまして、春日山避難地からの下田公園に向かう橋ですけれども、そこに穴が空いているという心配の声がありまして、当局のほうに伺いました際、即日対応していただきました。ありがとうございました。

ぜひとも、命をつなぐ大切な場所となりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

２といたしまして、備蓄品についてお尋ねいたします。

非常食と水の保管が25カ所されているとのことですが、保管場所を教えていただきたいです。また各種備品には、どのようなものが備蓄され、どの地区に置かれているのかについても教えてください。

合わせて、各地区の防災倉庫によって、備蓄されているものが違うのかと思います。例えば、毛布ですとかおむつ、生理用品とか、いろいろ必要性の高いものとかございますけれども、さらに必要とされるものに対して、それらをどのように補充されているのか、地区とのやり取りがどのようにされているのかについても、お聞かせいただければと思います。

○議長（中村　敦君）　防災安全課長。

○防災安全課長（土屋武義君）　25カ所に備蓄している非常食と水の保管場所についてでございますが、市が設置する倉庫で、非常食及び水を備蓄しておるところは、敷根公園、それから市民スポーツセンター、それから下田小学校、下田中学校、稲生沢小学校、稲梓小学校、旧稲梓中学校、白浜小学校、浜崎小学校、旧下田東中学校、朝日小学校、大賀茂小学校、青少年海の家、旧下田幼稚園、下田保育所、下田認定こども園、稲生沢保育園、ひかり保育園、賀茂地域局前倉庫、梓の里、みくらの里、つくし学園、グループホームたんぽぽ、下田公園、旧白浜幼稚園の25カ所でございます。

予想する避難者の必要数に応じて、分散備蓄してございます。

次に、各種備蓄品はどのようなもので、どの地区に置かれているかということでございますけれども、非常食及び水以外の主な備蓄品につきましては、毛布だとか、あと仮設トイレ、携帯トイレ、テントとか、あと簡易ベッド、寒さをしのぐ防寒アルミシート、マスク等の全62種類を備蓄しておりまして、予想される避難者数に応じて、各地区の備蓄品倉庫に分散保

管をしてございます。

それからまた、各地区の防災倉庫の備蓄品の違いは何でかということと、必要する備蓄品の補充方法、それから各地区との調整は行っているのかというような内容の御質問でございますけれども、こちらにつきましては、各備蓄倉庫に必要となる備品を配備することが、これ理想でございますけれども、倉庫の設置場所の都合によりまして、各倉庫に大小がございます。そこで配備し切れない備品が出てきております。

このため、近隣の倉庫で調整しながら、旧６カ町村、いわゆる旧町とか稲梓とか、単位で保管を行いまして、必要数の確保を行っているところでございます。

また、新たな種類の補充備品につきましては、県からの情報や機関紙、それから自主防災会との会合の中で出された意見をもとに、非常時に有効が高いものを、順次取り入れてございます。

以上でございます。

○議長（中村　敦君）　６番　天野美香君。

○６番（天野美香君）　ありがとうございます。なかなか市民の皆様にも、どこに何を、どのように備蓄しているのかっていうことは、なかなか理解されていないと、把握されていない方もいらっしゃいます。私もそうなんですが、こうした機会で、市民の皆様に、そうしたことを知っていただくこともできます、また共有させていただきましたことは、ありがとうございます。

国交省の東日本大震災の実体験に基づく心得の中に、備えていたことしか役には立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかったとあるんですけれども、今後も行政と区とで管理を徹底していただきまして、よろしくお願いしたいと思います。

しかしながら、防災においては、自助を持つということも大切です。避難所に行けば何とかなるということではなくて、一人一人の備えは大変重要と思いますので、行政と市民の日頃からのつながりこそ、そういったことが助けになると思われますので、今後とも安心して過ごせますように、ともによろしくお願いしたいと思います。

３つ目の、平滑川の水門なんですけれども。申し訳ありません、失礼しました。

ドローンとオフロードバイクについて、私のほうからお伝えさせていただきます。

ドローンも、県の過疎イノベーション事業を活用されて、実証実験をされるということですけれども、こちらも市民の方からの要望の声でもありましたし、ドローンは生存確認、それと地域地域の災害状況なども確認できるものですので、こちらのほうも役立てることにつ

なげていただければと思います。

また、オフロードバイクは、車検が要らないということで、自衛隊でも使われている、すごく画期的なものでありますし、災害時の状況を考えますと、凹凸の路面でありますとか、あとは障害物がどうしても出てきます、人が歩けるかどうか、なおさら車は絶対に無理ですから、そういったことに乗り越えられることからも、ドローンと合わせて導入をお願いしたいと思います。

もう一つ、質問をさせてください。

携帯トイレの件ですが、こちらのほうは、何カ所に備蓄されていらっしゃるんでしょうか、教えていただければと思います。

○議長（中村　敦君）　防災安全課長。

○防災安全課長（土屋武義君）　携帯トイレの関係でございます。トイレ関係につきましては、敷根公園、それから白浜小、浜崎小、それから旧下田東中、それからグループホームたんぽぽ、そして旧白浜幼稚園に備蓄されてございます。

携帯トイレにつきましては、コンパクトなものでございますので、不足するトイレの、トイレ事情につきましても、早急に各避難所に配置できると考えてございます。

以上でございます。

○議長（中村　敦君）　６番　天野美香君。

○６番（天野美香君）　ありがとうございます。

先日、タモリさんのテレビでも、何はともあれトイレは大事っていうふうに言っていました。本当にちっちゃな子供もそうですけれども、トイレは最も重要な備品であると思いますので、使用後の衛生面もしっかりと考慮していただくことも十分な備えでありますので、よろしくお願いいたします。

３つ目の、平滑川の水門ですけれども、下田土木事務所の方との協議されましてということですが、ぜひ、大変心配の声がいろいろ聞かれておりましたので、また問い合わせ等がありました際には、細やかな対応をよろしくお願いしたいと思います。

４つ目の、防災における女性の参画についてです。

当局のおっしゃいました、女性会長さんは、実は一度、私も伺いましてお話をさせていただきました。その折に、いつ起こるか分からない。だからこそ、備えることの重要性が大事であること、日頃からの訓練と同時に、心構え、災害の意識を持つことが、いざというときに役に立つと、会長さんは話されていらっしゃいました。

実際に東日本大震災の折にも、女性の目線から、避難所での生活において、細やかな対応が大変役立つと言われております。高齢者の方やけがをされた方、身近な人の安否を心配される方、小さなお子さんや、様々な状況を抱えるのが避難所となります。

女性の参画は必要性を持つ事業であると思いますが、女性職員の配置等の対応、検討もあるとのことですが、どのように呼びかけをされているのか、お考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（中村　敦君）　防災安全課長。

○防災安全課長（土屋武義君）　女性の参画は重要で、どのように参画を呼びかけるかという御質問でございますけれども、女性の自主防災会への参加は、とても重要と捉えておりますけれども、先ほど申し上げましたとおり、現在のところ、主体的な立場で参加していただけている方は少数と感じております。

避難生活における女性の安全・安心の確保、女性と男性が災害から受ける影響や、男女のニーズの違いへの配慮。また、被災者支援などの災害対応の現場への女性の参画など、一層のリーダーシップを発揮していただくために、まずは、各区長さんに集まっていただく行政協力委員会会議等の場におきまして、女性防災委員の必要性を説明するとともに、女性の出席しやすい時間帯での防災委員会議の開催ですとか、あとは女性防災委員のための講座を開講するなど、積極的に女性防災委員への登用を、これからもお願いしていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（中村　敦君）　６番　天野美香君。

○６番（天野美香君）　ありがとうございます。

各区長さんとの行政協力委員会議ですか、何分、女性が動くには時間帯っていうのは、本当にとても重要なポイントといいますか、なかなか夜っていうのは出にくいものでして、そういった女性の出席しやすい時間等の配慮等、講座の開講などの御検討に、大変感謝いたします。

本当に引き続き、女性だけがというわけではありません。男女均等に、女性は女性の目線として、男性と一緒に、合わせて力になれることっていうのは、すごく重要だと思いますので、男女均等に、女性は女性、男性は男性の、それぞれの持ち分もありますので、そうした役割を十分発揮できますような取組をお願いしたいと思います。

先ほど、出前講座のお話もしましたけれども、伊豆の国の出前講座、女性が参画でやられ

ているんですが、３年間の中で40カ所、1,200人の方々と、防災についてのつながりをつくられるということを伺いました。

参画において、大切であろう一歩として、できることから始める。できる人ができることとして、始めようの声かけは、下田市においても、地域の行事ですとか、子育て世代の中の連携にも、大きなつながりとしてあると思います。

防災を考える要素としての共助のもと、行政とともに、私自身も女性の参画を呼びかけていきたいと思います。様々な役割を持って助け合うのが避難所であると思いますので、それぞれの視点の中で、いざというときのために生かされますように、ともによろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

５つ目の、防災教育について、ありがとうございます。

先ほど、教育長がおっしゃってました、ＨＵＧなんですけれども、私自身も先日の災害ボランティアコーディネーター養成講座の折に、ＨＵＧを経験してきました。このＨＵＧというのは、教育長もおっしゃってましたけれども、避難所運営ゲームという、この頭文字をとったもので、英語で抱きしめるという意味を含めて、避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと兼ね合わせて、名づけられたということです。

防災教育のゲームなんですけれども、実際に避難所と見立てた学校の体育館の中でありますとか、職員室ですとか、応接室という、図面があるんですけれども、そこにこういう状況の人が避難してきた場合には、どこに行ってもらう、この人は、アメリカの観光客が大型バスで来ましたけれども、じゃあこの人はどこに避難してもらう。そのときに、先ほども申し上げました、男女の差があったんですが、それぞれの視点を話し合いながら、バスで来たんだったら、バスで１日避難してもらう。じゃあバスの中。じゃあ、この熱のある人はっていう、そういうゲームでした。これは本当に、すごく生きた教育にもつながると思いまして、実は娘も高校でそれをしてまして、うちの中で、夕飯のときに共有できたんですね。

お母さんはじゃあ、この人はどこに避難させたの、お母さんはこうだ。あっ、それは違うねって。やっぱりこういった保護者間との共有っていうのは、本当に防災に、すごく意識の向上としてつながりますので、本当にありがたいと思います。引き続きよろしくお願いしたいと思います。

そこで、今後の方針としましてお聞かせ願いたいんですが、東日本大震災の後に、防災キャンプというのが実施されまして、希望する児童を対象に、下田市で行われました。息子も参加していましたので、私も関わらせていただいたんですが、コロナも５類となり、世の中

の動きが平常となった今、賀茂地域局であった、国のモデルだった防災キャンプですけれども、そういった体験カリキュラムなど、今後、お考えがあるか、お聞かせ願えればと思います。

○議長（中村　敦君）　教育長。

○教育長（山田貞己君）　ありがとうございます。ＨＵＧについても、ＤＩＧについても、臨場感を持って子供たちができる活動ということで、主体性を持ってできるものですから、非常にいい訓練になるなとは思います。

今、防災キャンプのお話がありましたけれども、一番最初、平成24年だったと思うんですが、静岡県の受託事業として、翌年に下田市が、今度、受託したということで、それを天野議員さん、多分経験なさっているかと思うんですが、私もその当時、キャンプにも参加しまして、いろいろな訓練ですとか、作業、活動を、子供たちと一緒に体験した経緯があります。

そのときに、先ほど、議員からもありましたＨＵＧですとか、ＤＩＧということが初めて登場して、私の目の前でですね。私も初めて経験をしました。

そのときに、これがまた今後、東日本大震災のことも教訓に加えて、いろんなところで使われるんだろうなと思って、徐々にこれが各学校で、地区で、地域で定着してきたという経緯があったと思います。

ここ数年、それはもう定着して、あのキャンプで学んだことが、還元されてきていると思いますので、コロナということもありましたので、一時期、それができなくなったという実態はあると思うんですね。ですので、これからまた、県とか危機管理課から、こういったことがありましたら、積極的に参加する必要があるなというふうには思っています。

学校教育課としてキャンプを張るかということについては、今のところは考えておりませんが、これは小さな所帯ではなかなかできないことだと思いますので、危機管理課、県のほうと、タイアップできて、それと市と一緒になれれば、かなりの訓練になるなというふうに思ってはおります。

以上でございます。

○議長（中村　敦君）　６番　天野美香君。

○６番（天野美香君）　ありがとうございます。

キャンプは本当に、町中歩いてハザードマップを作ったり、あと避難所同様に電気もなく、500ミリリットルの水２本で顔を洗う、飲水にする。突然の地震、津波発生の避難をしなさい。あと、液状化現象の勉強もしましたので、かなり経ちますけれども、子供と共有もでき

ます。

大変、子供たちは本当に忙しいカリキュラムの中ではありますけれども、キャンプでなくても、今、実際、防災教育しっかりしていただいていますので、ぜひ、少しずつの積み重ねが生きると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

問題２について、人と動物の愛護と共生について、御回答ありがとうございます。

１についてですが、多頭飼育の現状についてなんですが、実は、私自身も、この多頭飼育というのは、なかなか飼っていない。飼っているのに飼っていないのやり取りを、すごく耳にするのは、とても現状なように感じます。

現に、数年前、私自身も御近所も、本当に多頭飼育にすごく悩まされた経験がありまして、猫はじっとしてません。時期によっては、臭いとか、ノミの問題ですとか、一番困ったのが排せつ物なんですね。あちこちでしてしまうものですから、素人なりに、いろんな工夫をしたんですけれども。ムカデとか、そういう害虫対応の粉は、どうも１回目は効くんですが、２回目、猫のほうが偉いのか、効かなくなりまして、最終的には、唐辛子の粉を業務スーパーで買いまして、それをまきましたら、見事に来なくなったりって、そういったこともいろいろ経験したりしまして、そのときに、ねこサポさんと、あと保健所の方々が、何度も足を運んでくださいまして、結局、ＴＮＲ活動によって野良猫が減少したということも、実際にございました。

行政だけでは、なかなか賄えないことと思いますし、本当にボランティア団体との連携は不可欠ですので、情報共有をしていただいて、よろしくお願いしたいと思います。

猫っていうのは、生後６カ月で妊娠が可能で、妊娠期間は２カ月なんですけれども、１回の出産で大体４から８頭出産し、年に何度もそれを繰り返しますと、１頭の雌猫から、大体１年間で240頭にも増えます。

本当に繁殖力が強く、去勢と避妊手術というのは、すごく大きな、重要性のあるものですので、線引きが難しい多頭飼育の現状ではありますけれども、そちらも引き続き、ボランティア団体との連携を取っていただきまして、よろしくお願いいたします。

餌やりにおいてですけれども、こちらのほうも工夫していただきまして、ありがとうございます。

近年では、動物愛護や環境保護の点から、行政にすごく対策が求められておりますけれども、ほっておきますと、環境のバランスとか、自然環境の補正にも引き起こす原因にもなり

ますので、また他動物との、今、新聞でも掲載されておりますけれども、他動物との関連性も考える現実でありますから、市民の安全を第一に、ともに取り組んでいただければと思います。

３についての、今後のボランティア団体とのつながり、連携、改善策でございますが、こちらの方も、補助が出るということで、大変助かると思います。本当に寄附だけで賄われていらっしゃいましたので、ぜひとも、今後も情報共有していただきまして、連携を強化していただければと思います。

コロナウイルスの感染症によりまして、需要が広がったものの、その反面、人の身勝手な行動によって動物たちを苦しめているのも、これも本当に実情です。人と動物が関わるのは、言葉を交わせない分、とても難しいことだと思います。特に、野良猫においても、人が招いたことでもあり、猫だけが悪いわけではございません。人と動物が共存することは難しいです。しかし、共生していくことは可能かと思いますので、動物愛護推進のもと、行政とボランティア団体の連携の中で、命への取組をお願いしたいと思います。

まとめさせていただきたいと思います。

防災においても、動物においても、命と向き合うことでございます。様々な問題・課題がございますけれども、行政では賄えないことを、共に連携していく必要があると思います。今後も市民の声を聞き、その声を届け、安心して過ごせるように努めてまいりたいと思います。

皆様、御協力のほど、よろしくお願いいたしまして、最後に市長より、現状と今後の方針につきましてのお考えをお聞かせいただきまして、趣旨質問を終わらせていただきます。

○議長（中村　敦君）　市長。

○市長（松木正一郎君）　議員は、大変この多頭飼育崩壊について、市民の声を聞いたり、いろいろお勉強なさっているんですね。それで、その結果、今日こういった形での質問になる。

この質問の表現の中に、無責任な餌やりをしている人という表現がございました。純粋に、弱い生き物に対する愛情、優しさからやってしまっている人もいるかもしれない。ところが、それが結果的に社会問題につながるという、こういう御指摘だろうと思います。

ですから、実際にそういった餌やりを定期的に行っている方のところに、私ども訪問して指導するという、直接対応、これはやっていますが、これだけでは十分じゃなかろうと思います。

それから、看板も設置していますが、一般的には、人々が、私も含めて、看板の設置だけ

ではそれほど行動変容につながるとは思えない。しからばどうするかと言えば、やはりこれは、広く市民の皆様を対象に、啓発活動をするという、間接的なんですけれども、これが実は、急がば回れの大切なもので、あるいは効果的ではないかというふうに考えております。

こうした行政の取組をしつつ、一方で、ねこサポさん、サポは多分、サポートって意味じゃないかと思うんです。このサポート団体を、我々もサポート、これが重要だと思いますので、今後、しっかりと連携を図って、各種施策を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（中村　敦君）　これをもって、６番　天野美香君の一般質問を終わります。